

# 日本医療福祉生協連近畿ブロック有志

## ボランティアセンター 東日本大震災支援ニュース

NO. 7 2011年5月11日 発行担当 神戸医療生協・森

### 支援に入る際、FMラジオも用意してください

山元町の社会福祉協議会から、花釜区など国道6号線以東の立入許容区域に入って活動する際はラジオを用意してくださいとのアドバイスがありました。災害臨時FM局「りんごラジオ」(80.7MHz)が余震情報・津波情報を放送するので、安全のためにラジオを聴きながら活動してくださいとのことです。

### 仮設入居が決まらない方への精神的フォローが必要

坂元支所避難所を訪問。仮設入居が進み避難所が空いてくる中で、未だ仮設入居が決まっていない方の精神的ストレスの高まりを感じます。「一日がものすごく長く感じる。どう過ごしていいかわからない。ノイローゼ気味」と言った声、「眠剤を飲んでも不安で安眠できない」と言った声も出ています。17日には坂元中学校避難所が坂元支所避難所に集約されます。仮設入居が未だ決まらない方々への精神的フォローが必要です。

### 花釜区での聞き取り 自治機能の再構築が鍵

1000世帯を超える区域が津波で大きな被害を受けた花釜区で聞き取り。区の役員さんも被災し避難所生活をされているなど、地域の自治機能が崩壊している中で、清掃・片づけをしながら自宅で生活されている方は、行政からの情報も支援物資もいきわたらず、孤立しています。

今後、自治機能の再構築を図っていくことが孤立状態を解決する大きな鍵となります。

### コミュニティー維持を最優先に 磯区の取り組み

河北新報特集・「郷土再興 支える人々」[http://www.kahoku.co.jp/spe/spe\\_sys1069/20110508\\_01.htm](http://www.kahoku.co.jp/spe/spe_sys1069/20110508_01.htm)

【引用開始】◎地域社会維持へ全力／住民の集団避難を先導

—山元町磯地区の被害状況は、

<首長に掛け合う>「ホッキ貝の水揚げで有名な磯浜漁港を抱える磯地区の人口は147戸で約510人。このうち135戸が津波で流失し、死者・行方不明者は45人に上る。私は東日本大震災の地震発生時、町役場で会議に出席していたが、住民を避難誘導するため自宅に戻ったところ、直後に津波に襲われた。自宅には入らず、逃げたため間一髪で助かった」

—被災直後はどんな行動を取ったのか。

「住民は当初、町内の上平地区と福島県新地町に分かれて避難したが、磯地区全体でまとまって行動するには不都合だったため、3月16日に町老人憩いの家に移った」

—4月3日からは角田市婦人研修センターと柴田町の「太陽の村」に2次避難を始めた。

「町老人憩いの家には定員70人に対し110人が避難していた。布団2枚を3人で使い、廊下でも寝泊まりする状態で、住民のストレスがたまっていた。インフルエンザも流行し、隔離する部屋を設けるのも大変だった。仮設住宅ができるまで、住民をこうした環境に置くのは忍びず、再び分かれて避難することにした」

「2次避難先の確保に当たっては、震災で混乱が続く中、町の災害対策本部を通せば時間がかかると思い、角田市長や柴田町長に直接掛け合い、受け入れてもらった」

—住民の様子は。

「住民は一度落ち着いた環境から離れたがらなかったが、コミュニティーを維持するため、半ば強引に説得した。今は角田市に35人、柴田町に67人が身を寄せている。避難所生活がだいぶ落ち着いてきたので、安心している」

—なぜ地区単位の集団移転にこだわったのか。

「そばに知っている人がいると安心できるのが大きい。また、これから磯地区の将来像を考えると、町任せでなく、地域の意向を反映させるため意見交換をしていく上でも、集団で動いた方がいいと判断した」

—今の暮らしぶりは。

<密に情報を伝達>

「全体で週3回、ミーティングを行い、町内の被災状況や行政手続き、仮設住宅に関する情報などを説明する場を設けている。角田には2日に1度のペースで訪れ、情報を伝えている。日中は地元の方々が映画鑑賞会や押し花教室などを開いてくれるのでありがたい」

—かつて連合宮城で会長を2期4年務めた。

「議員や首長らとの人脈が地域の復興に向けて大変役に立っている。被災直後の混乱した状態では、自分が道を開かないと先が見えない。自ら率先して行動するリーダーシップは、自然と身に付いたのかもしれない」

—町内で仮設住宅への入居が始まった。

「磯地区でまとまって仮設住宅に入居したい。今後は恐らく、今まで住んでいた場所には住めなくなる。今までのコミュニティーを保ったまま街づくりをどう進めるか。長い時間をかけて地域で話し合い、まとめていきたい」(聞き手は小沢一成)

<ほし・しんいち>山元町出身。仙台工高卒。東北ゴム(仙台市)労組委員長などを経て、2001年から連合宮城会長を2期4年務めた。09年4月から現職。

2011年05月08日 日曜日

【引用終了】